

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年4月1日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
吉田 様子	よしだ しょうこ	保育学科 通信教育課程	講師	女

## 担当科目名

教育実習・教育実習事前事後指導・保育実習事前事後指導・保育課程論・教育の方法と技術・保育教育実践演習

## 学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
S49 (1974) 年4月	東筑紫短期大学 保育科 入学	
S51 (1976) 年3月	東筑紫短期大学 保育科 卒業	短期大学士
H19 (2007) 年4月	北九州市立大学大学院人間文化研究科人間文化専攻(修士課程)入学	
H21 (2009) 年3月	北九州市立大学大学院人間文化研究科人間文化専攻(修士課程)卒業	修士(人間関係学)

## 教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
社会福祉法人 光和会 光和保育園	S52 (1977) 年4月～ S53 (1998) 年3月	保育士
学校法人東筑紫学園 東筑紫短期大学	S53 (1998) 年4月～ S59 (1984) 年3月	東筑紫短期大学保育科 副手(昭和59年3月まで)
学校法人東筑紫学園 東筑紫短期大学	S59 (1984) 年4月～ H30 (2018) 年3月	東筑紫短期大学保育科 助手
学校法人三幸学園 小田原短期大学	H30 (2018) 年4月 現在に至る	保育学科 通信教育課程 講師
社団法人福岡県社会保険 医療協会 筑豊看護専門学校	H30 (2018) 年4月 現在に至る	非常勤講師「人間関係論」担当

## 所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本保育学会	H16 (2004) 年5月～ 現在に至る	
九州心理学会	H20 (2008) 年5月 現在に至る	
日本キャリア教育学会	H21 (2009) 年6月 現在に至る	
日本学生相談学会	H21 (2009) 年10月 現在に至る	
日本教育カウンセラー 学会	H26 (2014) 年6月 現在に至る	

## 社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
メンタル・ケア講師	H28(2016) 年9月	北九州市立大学女性研修会 研修講師「メンタル・ケア」
大学院生アドバイザー	H23 (2011) 年4月～ H29 (2017) 年9月	北九州市立大学大学院「社会心理学研究」「社会心理学演習」の 院生アドバイザー

## 担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
幼稚園教諭二種免許状	S51 (1976) 年3月	福岡県 教育委員会(昭51 幼二種 第1667号)
保育士資格	S51 (1976) 年3月	学校法人東筑紫学園 東筑紫短期大学 保母資格・保育士資格 登録番号(福岡県-0463831)

初級産業カウンセラー	H13 (2001) 年 1 月	日本産業カウンセラー協会 (第 S0901808 号)		
キャリア・カウンセラー	H24 (2012) 年 10 月	日本キャリア・カウンセラー学会 (認定登録番号 第 203 号)		
初級教育カウンセラー	H27 (2015) 年 12 月	日本教育カウンセラー協会 (第 11790701 号)		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要
1. 保育専攻学生における保育職の適性に関する研究(研究Ⅰ)－実習の前後に見る認知の変容について－	単著	H20 (2008) 年 11 月	九州心理学会第 69 回大会	九州心理学会にて発表 保育学科を専攻した学生は、将来の職種を明確に持って入学してくる。しかし、幼稚園等の実習を経験する内に自己の適性を信じ、意欲的に幼稚園教諭を目指すことができる学生と、そうでない学生とでは何が影響しているのかを検討した。学生は1回目の実習を経て、保育の知識や技術面での成長を感じた学生は、自己の適性或意欲・保育職への志向感が高まる結果を示し、修士論文の研究Ⅰとして位置づけた。
(学位論文) 2. 保育専攻学生における保育職の適性に関する研究－実習の前後に見る認知の変容について－	単著	H21 (2009) 年 3 月	北九州市立大学大学院学位論文 (67 ページ)	学生は実習を通して、保育職に対する適性感を高め、実習における自己のコミュニケーション能力の成長を経て「本来感」が高まり、併せて幼稚園教諭への意欲と適性感や志向感が高めることが明らかになった。
3. 保育専攻学生における保育職の適性に関する研究(2)－実習の前後に見る認知の変容について－	共著	H22 (2010) 年 3 月	北九州市立大学文学部紀要	修士論文で得たデータ及び重回帰分析の結果を基に、共分散構造分析を行ない、加筆・修正した。 結果は重回帰分析と同様の結果を示した。 北九州市立大学文学部紀要第 17 号 (pp. 61-74) 著者：吉田祥子・田島司
(教育実践記録等) 1. コミュニケーションを高めるための一方策－清掃活動(トイレ)を通じたキャリア・カウンセラーとの関わり－	単著	H25 (2013) 年 10 月	第 35 回日本キャリア教育学会	キャリア教育学会にて発表 教育実習及び卒業後の現場では、欠かすことのできない清掃のスキルアップを図るため、学生と共に行うトイレの清掃活動を通して、筆者は信頼関係を構築し、学生生活や実習に対する個々の不安を受けとめることができるようになった。
2. キャリア形成支援の一方策－清掃活動を通じたキャリアカウンセリングの試み－	単著	H26 (2014) 年 12 月	東筑紫短期大学研究紀要	キャリア教育学会で発表した結果を更に詳細に検討した事例研究。 筆者は学生との関係性の維持に努め、2 年次の実習、就職活動に至るまでのカウンセリングを継続して行った。その結果、学生自身が自己の不安と向き合い、意欲的な実習及び就職活動に向かう姿を示した。 著者：吉田祥子 東筑紫短期大学研究紀要第 46 号 (pp:61~74)

3. 保育職への不安を抱える学生へのキャリア・サポーターTEMを用いた既卒者の語りからー	単著	H28（2016）年10月	第37回日本キャリア教育学会	キャリア教育学会にて発表 保育職への適性が優れているにも関わらず、自己の適性感を感じることができないまま通学が困難になった学生を1年次より4年間、カウンセリングを継続した。その結果をTEM図に表し分析を行なった。
4. 保育職への不安を抱える学生へのキャリア・サポーターTEMを用いた既卒者の語りからー	単著	H28（2016）年12月	東筑紫短期大学研究紀要	キャリア教育学会で発表したTEM図を更に分析した。既卒者本人にも提示し、自己の振り返りを促すことができた。同時に自己理解・職業理解を深めることができ、自己受容する姿が見られるようになった。また、次第に自己の保育職に対する意欲や適性感も肯定的に受け入れることが可能となった。 著者：吉田祥子 東筑紫短期大学研究紀要第47号 (pp:221～230)
その他(表彰等)				学校法人東筑紫学園 永年勤続賞